



カルチャーゾーン周辺

**歴史・文化資産を生かした
まちづくり**

問 都心創生事業のキックオフの目途は。

答 カルチャーゾーンを含む旧城下町エリアで、市の歴史・文化資産を生かしたまちづくりを進めるもので、平成22年9月8日に第1回都心創生事業アドバイザー会議を開催した。

関係分野の専門家であるアドバイザーから意見をもらい、構想づくりに着手している。構想がまとまった後は、事業化の諸条件が整ったものから、実現に向けて取り組みを進めたい。

市の経済・雇用対策

問 ①平成21年1月補正予算からこれまでに計上された経済・雇用対策予算の規模は。

②23年度当初予算編成の経済・雇用対策についての考え方は。

答 ①今議会への追加提案分まで、回数は計12回、予算規模は雇用対策事業約16億7,000万円、経済対策事業約267億9,000万円となっている。

②22年度の当初予算では、雇用創出事業、安心こども基金を活用した事業など、約28億円を計上しており、23年度予算でも、国の財源を伴った事業だけでなく、その事業効果を増進させる市の単独事業について、積極的に取り組む。

**おかやま都市交通戦略
連携会議を発足**

問 おかやま都市交通戦略連携会議の持つ意義及びテーマは。

答 公共交通の意義、重要性について、市民に十分な理解が得られていないことに加え、公共交通事業者も協調・協働関係を形成する

状況に至っていないことから、公平で中立的な議論を進める枠組みとして、平成23年早期に、おかやま都市交通戦略連携会議を商工会議所との間で発足する予定である。

今後、有識者、公共交通事業者、商工・観光関係者など各界各層との幅広い対話・議論を通じ、街なか交通問題の検討、吉備線LRT化の推進や市民合意の形成など、都市交通戦略全般を包括的に議論していく。

用語解説「LRT」

低床式車両の活用や軌道・電停の改良による乗降の容易性、快適性などの面で優れた特徴を有する次世代の軌道系交通システムのこと。

市内中小企業に対する景気対策

問 ①地場の中小企業等への官公需の活用、受注機会を増やす取り組みは。

②小規模修繕等の業者登録制度の実施、検討状況は。

答 ①市の公共事業の発注に当たっては、市内業者優先を原則とし、可能なものは分離・分割発注を行うなど、中小企業に配慮している。今後とも、市内中小企業の受注機会の確保に努めたい。

②平成23年度から試行し、課題があれば修正しながら進めたい。

用語解説「官公需」

国、地方公共団体、公団等が企業などと物品の購入、役務の提供、工事の請負契約を結ぶこと。

**フルーツ加工品をブランド化
「おかやま果実」**

問 岡山商工会議所が認定した「おかやま果実」をどう評価し、今後どのように活用していくのか。

答 岡山商工会議所を中心に、意欲ある民間事業者の創意工夫により、岡山を情報発信する新たな名物が誕生したと高く評価している。

加工品のため、岡山のお土産として持ち帰ってもらうとともに、取り寄せや県外等での販売も可能な素材である。全国流通することで、知名度向上やイメージアップにつながるものと期待している。

また、検疫が厳しい海外へも持ち込むことが可能であり、シティプロモーションの大きな武器になる。

今後、フルーツパフェと「おかやま果実」を一体的に売り込み、相乗効果を図っていきたい。



岡山県産の果物を
ブランド化して全国へ発信